

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
話・聞	：話す・聞く能力
書 く	：書く能力
読 む	：読む能力
言 語	：言語についての知識・理解・技能

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)		
A話すこと・聞くこと (1)3・4年オ	1	一	◇	話・聞	65.0	64.6		
A話すこと・聞くこと (1)3・4年エ		二	◇	話・聞	60.0	40.3		
A話すこと・聞くこと (1)3・4年エ		三		話・聞	70.0	93.4		
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)3・4年ウ(イ)、イ(ウ)	2	一	ア	◇	言語	70.0	75.7	
				◇	言語	65.0	70.7	
				◇	言語	70.0	82.2	
		ウ	残る必ず	◇	言語	65.0	81.2	
				◇	言語	65.0	82.0	
(1)3・4年ウ(ア)、イ(キ)	二	(1)	◇	言語	65.0	71.0		
		(2)	◇	言語	50.0	70.7		
		(3)	◇	言語	75.0	29.1		
(1)1・2年イ(カ) (1)3・4年(キ)	三	(1)		言語	80.0	59.7		
		(2)		言語	80.0	80.0		
		(3)		言語	80.0	59.1		
		(4)		言語	80.0	81.8		
B書くこと (1)3・4年アイウエオ	3	一	◇	書 く	50.0	19.3		
		二	◇	書 く	40.0	53.5		
C読むこと (1)3・4年ウ	4	一		読 む	70.0	63.9		
C読むこと (1)3・4年ウ		二	◇	読 む	70.0	49.8		
C読むこと (1)3・4年エ		三	◇	読 む	65.0	13.0		
C読むこと (1)3・4年ウ	5	一	(1)		読 む	80.0	34.1	
C読むこと (1)3・4年エ				A	◇	読 む	70.0	26.3
					◇	読 む	65.0	28.5
		◇	読 む		60.0	24.6		
C読むこと (1)1・2年オ (1)3・4年オ	二		◇	読 む	40.0	16.3		

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号		問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	一	司会の役割の指摘	65.0	65.1	65.4	60.8	62.9	61.9	65.3	62.3		
	二	筋道を立てた意見の指摘	60.0	39.6	39.6	40.5	39.9	36.0	40.4	44.0		
	三	話の中心の聞き取り	70.0	93.5	93.7	91.2	91.8	91.2	91.0	93.2		
2	一	ア	「かぞく」の書き方	70.0	78.4	78.3	79.7	73.2	66.7	81.6	74.9	
		イ	「ととの(えました)」の書き方	65.0	72.4	72.5	69.6	70.7	68.8	76.9	68.6	
		ウ	「さいしょ」の書き方	70.0	84.1	84.1	84.5	77.7	75.4	78.7	79.8	
	(2)	残る	送り仮名の間違いの指摘	65.0	82.8	82.9	80.4	78.2	78.7	82.3	74.9	
		必ず	送り仮名の間違いの指摘	65.0	81.8	81.9	80.4	77.1	77.5	76.9	76.9	
	二	(1)	「あおり」のローマ字での書き方 (アルファベット順の指摘)	65.0	73.3	73.5	70.3	76.4	70.5	84.1	78.1	
		(2)	ローマ字「TOTTORI」の読み方	50.0	71.7	71.5	74.3	70.4	65.5	79.8	69.8	
		(3)	ローマ字「KISYA」の読み方 「きしゃ」の同音異義語の書き方(記者と汽車)	75.0	30.9	31.0	30.4	23.6	18.9	27.4	26.3	
	三	(1)	主語と述語の関係 (何が(は)どんなだ。)	80.0	59.0	59.0	58.1	58.0	58.1	61.0	56.0	
		(2)	主語と述語の関係 (何が(は)どうする。)	80.0	78.2	78.1	78.4	81.0	80.6	85.2	78.6	
		(3)	主語と述語の関係 (何が(は)なんだ。)	80.0	58.6	58.7	56.8	57.4	57.5	60.6	55.2	
		(4)	主語と述語の関係 (何が(は)ある・いる。)	80.0	80.2	80.2	79.7	82.9	82.1	84.8	82.5	
	3	一	必要なことを調べる(取材) よりよい表現に書き直す(推敲)	50.0	16.2	16.4	13.5	20.3	13.3	29.6	22.1	
二		中心を明確にして書く(記述)	40.0	55.1	55.2	54.7	54.8	48.2	62.8	56.9		
4	一	目的に応じた中心となる語の読み取り	70.0	65.3	65.6	59.5	64.5	61.1	69.7	65.0		
	二	目的に応じた中心となる文の読み取り	70.0	49.6	50.1	41.9	44.8	45.5	48.0	42.0		
	三	目的に応じた文章の引用、要約	65.0	13.9	13.9	13.5	11.1	10.9	10.5	11.7		
5	一	(1)	登場人物の性格の読み取り(解釈)	80.0	32.7	32.5	34.5	33.1	32.2	41.5	28.5	
		(2)	A	登場人物の性格の読み取り(解釈) 目的に応じた文章の引用(考えの形成)	70.0	25.4	25.5	23.6	23.4	21.5	26.7	23.4
			B	登場人物の性格の読み取り(解釈) 目的に応じた文章の引用(考えの形成)	65.0	27.5	27.8	22.3	24.4	25.1	26.4	22.4
			C	目的に応じた文章の引用(考えの形成) 登場人物の性格の読み取り(解釈)	60.0	23.5	23.4	25.0	21.2	21.1	23.5	19.7
	二	文章を読んで考えたことのまとめ (考えの形成)	40.0	18.2	18.4	15.5	13.2	11.6	21.7	9.5		
教科全体			66.0	55.1	55.2	53.6	53.3	51.2	57.5	52.9		

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
61.1	59.7	67.6	65.3	56.9	63.0	64.6	62.6	62.2	67.6	66.0	74.8	68.0	68.5	66.1	64.6
39.4	40.1	40.2	40.2	34.1	40.9	42.4	43.9	38.5	39.9	40.3	38.3	41.8	42.2	39.9	40.3
93.1	93.0	91.8	94.2	94.1	94.3	95.3	94.0	93.7	93.4	93.1	94.4	93.5	93.2	94.4	93.4
72.3	71.0	68.3	74.1	81.2	76.4	76.0	76.7	76.6	66.9	67.2	65.4	78.5	79.6	74.1	75.7
72.6	72.7	74.4	65.6	77.6	68.7	71.9	63.7	69.0	70.0	71.3	64.5	69.0	69.2	67.9	70.7
83.1	83.5	81.9	83.4	82.4	82.7	81.5	83.2	83.2	79.1	80.1	74.8	81.8	82.6	78.8	82.2
80.7	79.7	80.1	84.9	82.0	80.7	80.0	82.9	80.2	83.6	84.4	80.4	80.9	81.0	80.6	81.2
82.6	82.5	80.8	83.0	84.3	83.2	81.9	85.4	83.1	84.1	84.2	84.1	82.8	83.3	80.8	82.0
71.7	71.7	75.8	69.5	69.4	68.6	68.4	64.0	70.9	71.6	73.4	63.6	67.0	66.4	69.5	71.0
70.9	71.2	75.4	67.2	67.8	72.3	72.3	75.1	71.0	72.0	74.1	62.6	68.3	68.0	69.5	70.7
26.5	25.0	22.1	26.3	39.6	32.6	33.6	27.9	34.1	27.2	26.3	30.8	30.0	30.7	27.5	29.1
58.5	58.7	63.3	56.8	54.1	61.8	61.9	58.0	63.4	60.3	61.7	54.2	60.8	60.5	62.1	59.7
80.3	80.1	81.1	79.5	81.2	81.2	82.9	83.2	79.3	81.7	82.4	78.5	80.0	79.5	82.0	80.0
58.3	58.3	61.6	57.1	55.3	61.0	61.1	58.5	62.1	58.5	60.0	52.3	60.0	59.6	61.5	59.1
82.6	82.0	85.1	82.6	83.1	82.9	84.7	84.0	81.3	84.0	85.0	79.4	81.1	80.7	83.0	81.8
26.2	24.9	40.9	22.8	19.6	14.5	11.4	9.8	18.5	18.1	17.3	21.5	20.0	20.2	19.2	19.3
53.5	48.2	64.8	61.0	59.6	53.6	44.2	62.1	55.7	55.9	57.2	50.5	50.4	50.1	51.9	53.5
64.4	64.3	67.6	61.0	65.1	61.9	61.3	66.1	60.4	65.0	66.6	57.9	62.9	63.2	61.9	63.9
51.0	53.8	45.6	46.7	47.5	52.5	52.5	51.2	53.0	48.8	49.0	47.7	49.8	50.3	47.7	49.8
12.3	12.2	15.7	12.7	8.6	12.2	10.8	11.7	13.4	12.5	12.8	11.2	14.2	14.4	13.6	13.0
34.4	34.1	39.1	33.6	31.4	35.3	35.0	37.4	34.5	33.6	34.9	28.0	35.1	35.3	34.7	34.1
26.4	26.1	28.8	27.4	24.3	28.9	29.1	29.5	28.5	26.0	26.1	25.2	26.7	27.0	25.3	26.3
29.6	29.7	34.2	29.3	24.3	29.8	31.4	28.2	29.4	28.7	30.6	20.6	29.6	29.6	29.5	28.5
24.6	25.3	27.4	22.0	21.2	25.0	25.0	23.8	25.6	23.0	24.0	18.7	27.5	27.3	28.3	24.6
14.4	13.0	16.4	21.2	11.8	17.8	22.4	16.5	15.5	13.2	13.9	10.3	17.1	18.2	12.6	16.3
54.8	54.4	57.2	54.7	54.3	55.3	55.3	55.2	55.3	54.6	55.3	51.6	55.1	55.2	54.5	54.8

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	①三	①二	66.1	65.0
書くこと	2	③二	③一	36.4	45.0
読むこと	8		④二、④三、 ⑤一(1)(2)、⑤二	32.1	65.0
伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	12	②一(1)(2)、 ②二(2)	②二(3)、 ②三(1)(3)	70.3	70.4

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す・ 聞く能力	3	①三	①二	66.1	65.0
書く能力	2	③二	③一	36.4	45.0
読む能力	8		④二、④三、 ⑤一(1)(2)、⑤二	32.1	65.0
言語につい ての知識・ 理解・技能	12	②一(1)(2)、 ②二(2)	②二(3)、 ②三(1)(3)	70.3	70.4

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率 (%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
①	二	40.3	60.0	ウ(39.5)、ア(22.5)、無答(0)
②	二(3)	29.1	75.0	無答(34.0)、2つのうち1つが誤答又は無答(24.5)、ローマ字を正しく読んでいないため両方誤答(5.0)
③	一	19.3	50.0	「たり」を使って文を書いている(37.5)、二文に分けていない(18.0)、無答(15.5)、つなぐ言葉の誤答(3.5)
④	二	49.8	70.0	ウ(21.8)、イ(18.8)、無答(9.4)
④	三	13.0	65.0	ウイ(50.0)、アイ(15.8)
⑤	一(2)	26.5 (※A、B、Cの平均)	65.0 (※A、B、Cの平均)	A…無答(20.5)、③(12.0)、①(7.0)、⑧(7.0)、 ⑦(1.5)、人物名(1.0) B…無答(19.5)、③(12.0)、②(6.0)、⑤(5.0)、 ④(4.5)、⑥(1.5)、⑦(1.5) C…⑧(24.3)、無答(20.0)、⑦(17.5)、⑥(1.5)、 ③(1.0)、⑤(1.0)
⑤	二	16.3	40.0	ことわざの選択…無答(26.5)、②犬も歩けば(11.0)、 ①さるも木から(4.0) 理由…無答(33.5)、条件《理由後半》不備(25.0)…こと わざ又はデイビッドの言動の解釈誤り、条件《文字 数》不備(11.5)…40字未満、条件《理由前半》不 備(9.5)…デイビッドの言動の記述の誤り

- 誤答の原因として、[1]二では、解答が3つの選択肢に分散していることから、提案された4つの考えの共通点や相違点をよく確認していないことや、4つの考えがどのようなことに基づいているのかに目を向けていないことが考えられる。
- 誤答の原因として、[2]二(3)では、無答や両方誤答が多かったことから、ローマ字を正しく読めなかったことが考えられる。また、同音異義語としての既習漢字が身に付いていなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[3]一では、無答や「一つ目の文」にメモAの文章をそのまま書いているものが多くみられたことから、文は句点で区切られたものであるという理解をしていなかったことが考えられる。また、二文に分けているものの両方の文に「たり」を使っていることから、「たり」の使い方を理解していなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[4]二では、特長の5つ目である「イ」又は第一段落の内容である「ウ」を選んでいることから、ポスターの吹き出しや具体例が特長の3つ目に関わるものであると読み取れなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[4]三では、ひろしのポスターのまとめ方を「イ」とする解答が多かったことから、文章中のどの情報を取り出したものがポスターになっているのかを読み取れなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[5]一(2)では、人物の言動から性格を導き出せなかったこと、人物の性格が分かる言動を探し出せなかったことの2つから、印象だけの読み取りで、人物の言動を根拠にした人物の性格を捉え切れていなかったことが考えられる。
- 誤答の原因として、[5]二では、ことわざの選択は出来ても(約6割)、理由に人物の言動とつなげた内容を書くことができなかったことから、ことわざの意味の捉えが不十分であったことと、人物の言動から人物像(性格、人物同士の関係、物語上の役割)を読み取れなかったことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の1つ目として、「話すこと・聞くこと」・「話す・聞く能力」の話し合うことに関する指導事項においては、話し合いの目的や意図を捉えながら、進行に沿って話し合い、話す内容や聞いた内容をナンバリング(①いくつの項目があるか、②いくつ目の項目か番号を付ける)やラベリング(小見出しを付ける)を意識して整理する力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、司会の役割や提案の仕方を理解した上で、出された意見について共通点や相違点を整理していく話し合い方、結果を先に話しその後に理由を述べる話し合いの報告の仕方など、分かりやすく伝える話し方について指導することが大切である。

指導例

進行に沿って話し合う力を高める指導

～単元名「登校指導でお世話になった警察の方に感謝の気持ちを伝えよう」～

【指導の流れ】

1 話し合いの目的をはっきりさせ、提案について、いくつの意見が出たかを確認させる。

- (1)モデルとなる話し合いを教師が役割演技をして聞かせ、メモをとらせる。
- (2)話し合いの進め方を確かめさせる。
- (3)話し合いの中での司会者と提案者の役割について考えさせる。

メモの取り方の工夫は次のことでしたね。

- ・箇条書きで書く
- ・大事な言葉を書く
- ・線や矢印で関係を表す
- ・共通点や相違点に印を付ける



学習活動① 提案(議題)は何か。提案理由はいくつあるかを話し合う。

学習活動② 提案に対して、どんな意見がいくつ出たのかを確認する。

ポイント

ナンバリングとラベリングを意識して話し合わせる。

①提案（議題）について

提案（議題）は何か。提案理由はいくつあるのか。（ナンバリングとラベリング）

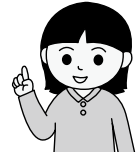
②話し合い

いくつの意見が出たか（ナンバリング）、どんな意見が出たか（ラベリング）。

2 出された意見についての話し合い方やまとめ方について考えさせる。

学習活動① 出された意見の共通点と相違点を話し合う。

理由をはっきりさせて、似ているところと違うところを考えよう。



学習活動② 決まったことを報告する原稿を作って発表する。

ポイント

ナンバリングとラベリングを意識して、報告原稿を作らせる。

①どの意見に決まったのか。

②その理由はいくつあるのか。（ナンバリングとラベリング）

理由は、いくつあります。1つ目は、……です。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の2つ目として、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」・「言語についての知識・理解・技能」においては、漢字やローマ字を正しく読み、書くことができるようにするとともに、関連性をもたせ適切に活用する力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、既習の漢字やローマ字を定着させていくために、国語辞典や漢字辞典の活用により、文や文章の中で語彙を増やしていくこと、コンピュータを使ってローマ字を活用していくことを取り入れた指導を国語科の中だけではなく、他教科や日常生活の中で関連付けながら指導していくことが大切である。

指導例

既習事項と関連させ、生活の中で活用する力を高める指導 ～単元名「漢字・ローマ字変換ゲーム」～

【指導の流れ】

1 同音異義語についてのクイズを作らせる。

学習活動① 国語辞典を使って、同音異義語を探す。



国語辞典を使って、同じ音で違う意味の言葉を探しましょう。

「かわ」という音でも国語辞典を使って調べてみると「川」「河」「皮」「革」などがあるよ。他の音はどうか。



学習活動② 調べた同音異義語を使い、友達に出題するクイズを作成する。また、友達が作成したクイズに答える。

ポイント

- ・既習漢字の定着を図ると同時に、同音異義語についても理解させる。
- ・クイズ作成と解答の中で、「同音異義語」、「漢字を書く」、「文を作る」、「ローマ字を書く」、「ローマ字を読む」、「文に合った漢字を選ぶ」などの過程を経験させる。

〔クイズ作成者〕

- ①国語辞典を使って同音異義語を調べさせる。(皮・川)
- ②同音異義語を使った文を作らせる。(りんごの皮をむく。ももが川を流れていく。)
- ③同音異義語の部分をローマ字に置き換え、クイズを作成させる。
(りんごの kawa をむく。ももが kawa を流れていく。)

〔クイズ解答者〕

- ①コンピュータにローマ字入力し、漢字変換の候補を調べさせる。(kawa→川・皮)
- ②漢字の選択に迷った場合は、国語辞典で意味を調べ、文に合った漢字を選ばせる。

2 クイズを全員に解かせる。



太郎さんからの問題です。
・朝顔の hana が さいた。
・ほめられて hana が 高い。
みなさん、それぞれの文に合う
「はな」の漢字を書きましょう。

花子さんからの問題です。
・チーターは 足が hayai。
・明日の朝は 起きるのが hayai。
みなさん、それぞれの文に合う
「はやい」の漢字を書きましょう。



内容・領域別、評価の観点別にみた課題の3つ目として、「書くこと」・「書く能力」においては、文章の書き換えや推敲、必要なことを正しく伝える力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、必要なことを調べる取材の中で、文章を読み直して間違いを正すことやよりよい表現に書き直すことなどの習慣付けをしていくことが大切である。また、よりよい表現に書き直したことにより、そのよさを実感できるよう、下書きと推敲後の文章を比べさせることや交流活動を取り入れるなどの工夫が必要である。

指導例

文章の比較、交流を通して書く力を高めるための指導
～単元名「比べてみよう！ 文章ビフォー・アフター」～

【指導の流れ】

1 写真を紹介する文を素材にし、書き直した方がよりよくなる点について話し合わせる。

学習活動① 写真の紹介文を読み、よさや書き直した方がよい点について意見を述べ合う。

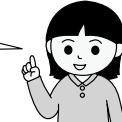


この文章を読み直すと、書き換えた方がよりよくなる部分があります。どんなところだと思いますか。



つなぐ言葉を使って、一文から二文に分けて書くと分かりやすいと思うよ。

文の終わり方を同じにすればよくなると思うわ。



ポイント

- ・よりよい文章にするための〈技〉(文末、接続語、よりよい表現、順序など)に目を向けさせる。
- ・書き換えることにより、よりよくなった点について感想をもたせる。

学習活動② みんなで出し合った〈技〉を使って写真の紹介文を書き直し、書き直す前と後を比較して、そのよさを感じ取る。

2 1で学習した〈技〉を使って、自分の文を書き直させる。また、推敲したことでよりよい文章になったことを実感させる。

学習活動① 以前書いた自分の日記を推敲する。

学習活動② 推敲したものをグループで読み合い、意見交換をする。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の4つ目として、「読むこと」・「読む能力」の説明的な文章においては、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、「読むこと」の説明的な文章については、児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起し、必要な情報を自ら見付けさせたり、目的に応じて要約させたりすることが大切である。

「活用」に関する問題についての課題としては、「読むこと」の説明的な文章については、目的や必要に応じて文章を読み取り、活用する力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、「読むこと」の説明的な文章については、児童の課題意識をかき立てる言語活動を単元に位置付けるとともに、教材文等から情報を取り出して再構成するなどして、自分の考えをまとめさせることが大切である。

指導例

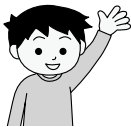
目的や必要に応じて文章を読み取る力を高める指導 ～単元名「科学読み物リーフレット」を作っておすすめの本を紹介しよう～

【指導の流れ】

1 学習の見通しをもたせる。

学習活動 教師の作成したリーフレット（「関心をもったこと」→「要約文」→「感想とおすすめの本」の順）を提示することによって、その科学読み物に興味をもつ。

※例えば、次のような説明的文章教材を想定しています。
「ウナギのなぞを追って」「ウミガメの命をつなぐ」
「アメンボはにん者か」



リーフレットを読んだら、その本を読みたくなったよ。ぼくの好きな本もみんなに「読みたい」って思わせたいな。

みんなもリーフレットを作って、おすすめの本を紹介しましょう。リーフレットにはどのようなことが書かれていますか。



ポイント

- ・児童の課題意識をかき立て、その解決のために教材文を読んでいくという目的意識や必要感をもたせる。
- ・リーフレットの内容について話し合うことで、リーフレット作りのポイントを押さえ、教材文のリーフレット作りをする際の見通しをもたせる。

2 教材文のリーフレットを作らせる。

学習活動① 教材文を読んで関心をもったところを中心に感想を書き、発表し合う。

学習活動② 自分が関心をもったところにサイドラインを引き、付箋に書き出してから付箋を整理し、まとめ、要約する。（字数を設定する）

字数が足りないから…あれは短く省略して、ここをくわしく書こう。



学習活動③ 要約文を読み合い、関心をもったことの違いや要約の仕方について交流する。



わたしは発見したときのうれしさに関心をもったから、□段落を中心にまとめたけど、○○さんは発見までの道のりに関心をもったから全体をまとめているんだな。

ポイント

- ・関心をもったことについて要約するために、必要な情報を自ら見付けさせる。
- ・目的に応じて要約の仕方が変わること気付かせる。

学習活動④ 「関心をもったこと」→「要約文」→「感想とおすすめの本」の順でリーフレットを作り、交流する。

3 自分が選んだ科学読み物についてリーフレットを作らせ、交流させる。

学習活動 並行読書してきた科学読み物のリーフレットを作って読み合い、おすすめの本が読みたくなるリーフレットになっているか評価し合う。

内容・領域別、評価の観点別にみた課題の5つ目として、「読むこと」・「読む能力」の文学的文章においては、登場人物の行動や会話に即して性格を押さえ、人物同士の関係、物語上の役割を考えながら、それらの人物像を中核に読む指導の充実が挙げられる。

今後の指導においては、文学的文章において、登場人物に視点を当てた言語活動の設定、登場人物の行動や会話に着目して想像を広げる学習が求められる。特に、人物を特徴付ける行動や会話から、性格や人柄を起点にして人物像を多面的に捉えさせる指導が大切である。人物像の捉えの根拠となる本文の引用（書き抜き）、人物像を表す表現方法の工夫（ことわざ・熟語への置き換え等）によって、自分の考えを明確にした表現が生まれ、交流活動が活性化する。

「活用」に関する問題の課題として、人物像を捉える言語活動と根拠となる行動や会話とのつながりを強化させた指導の充実、人物像を捉える言語活動の必然性を強化させた指導の充実が挙げられる。

今後の指導においては、人物像とその根拠が確実に導き出せる言語活動を設定すること、互いの考えを出し合うことによって人物像や作品の読みを補い合える交流の場の工夫をすることが大切となる。

指導例

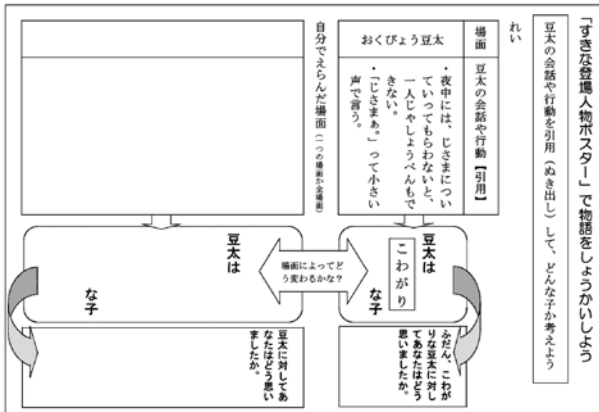
根拠をもって人物像と人物関係を捉える単元と言語活動

～単元名「登場人物ポスターで物語を紹介しよう」～

【指導の流れ】 3学年における「モチモチの木」（作：齋藤隆介）を例とした単元の流れ

1 登場人物（主人公）の会話や行動を整理して、人柄を考えさせる。

- ・ポスターによる人物紹介を目的に、会話や行動を抜き出し、そこから人柄を考えさせる。
- ・一つの場面、複数の場面、作品全体のいずれかから選ばせる。
- ・例をもとに「おくびょう豆太」の場面をモデルとして取り上げる。



① ノート・板書例

「おくびょう豆太」の場面では、豆太はこわがりだったけれど、他の場面ではどうでしょうか。

豆太は場面によってどんなふうになるのかな。「人がらを表す言葉」を使えば比べられるんじゃないかな。

ポイント1

- ①常に作品全体を意識させながら場面を捉えさせる。
- ②その人物らしい会話や行動に、特に着目させる。
単元を貫く言語活動である登場人物ポスター作りに生かすよう、常に意識させる。
- ③気持ちを表す言葉や、人柄をまとめるときに使える言葉を子どもたちから引き出し、リストとして壁面に掲示したり、ノートに貼付させたりしておく。

- 【気持ちを表す言葉】
- どきどきする ○おどろく
 - こわい ○…
- 【人がらを表す言葉】
- おこりっぽい ○おくびょう
 - よわむし ○かわいい
 - 思いやりがある ○やさしい
 - りっぱな ○こわがり
 - 勇気がある ○…

・交流のときには自分が選んだ場面以外にもふれられるようにし、場面の移り変わりや、場面による主人公の心情の変化も捉えさせる。

